

3歩進んで2歩下がる

そらのくみ　☺☺　☺☺

☺☺には、2つ上の姉☺☺☺がいます。小さい頃から人一倍繊細な☺☺は、年中まで別の園に通っていましたが、その園は、カリキュラムが多く、先生の指示が大きな声で飛び交うことで、行き渋りが増え、体に不調が現れるようになりました。嫌がりながら園に通う☺☺☺の姿を見て、次第に私は、「安心して預けられない。見ていられない」と感じるようになり、新たに園探しをすることにしました。子どもが伸び伸びできて、自由な保育をしている園がいいなと考えながらリサーチをしているとき、むらさき幼稚園を見つけました。早速電話をして、見学をお願いしました。当時、主任をされていた先生は、むらさき幼稚園の子どもたちが園でどのように過ごしているのか、先生はどのような思いで保育に取り組まれているのかをたくさんお話してくださいました。主任の先生は、「むらさき幼稚園は、子どもの揉め事に大人があまり介入しません。危ないことは止めに入りますが、大抵は見守っているので、もしかしたらうちに入園されることで、お子さんが傷ついたり、辛い思いをされることがあるかもしれません」となんともオープンに話してくださりました。私は直感でここだ！と思い、入園を決めました。むらさき幼稚園に入園した当初の☺☺☺の様子に、あまり変わりはありませんでした。それでも私が☺☺☺の背中を押せたのは、「ここの園と先生なら大丈夫。ここの園なら行けるよ」という私の気持ちが、以前とは明らかに違ったからでした。

さて、子育てとは面白いもので、同じ育て方をしていても、その子の性質や環境・経験などの違いで様々なカラーがあります。我が家では、繊細な☺☺☺とは相反して、☺☺は何に対しても好奇心旺盛でした。そんな☺☺が泣かずに登園するまでの道のりは、また長いものでした。年少になったある日、「幼稚園で遊ぶ人がいない」と家で泣き始めました。4月生まれで口が達者だった☺☺は、何か物足りない、家では自分の気持ちをたくさん話せるけど、園ではうまく伝えることができない様子でした。年中になると、家で少しずつお友達の名前が出てくるようになりましたが、泣きながらの登園は相変わらず続いていました。

そんな☺☺のルーティーンは、幼稚園前日の寝る前、「明日幼稚園ある？」と聞くので「あるで」と答えると「なんであるっていうんや！」と泣きます。朝起きて、幼稚園のお弁当作りをしている私を見て、泣き崩れます。園の自転車置き場につくとシクシク泣きます。自転車から降りたら、100秒間ぎゅーをします。門前までは抱っこ必須で、ギャン泣きのまま朝の担当の先生にバトンタッチしてお別れという流れが2年ほど続きました。初めは可愛かった「ママといたい！」も「いつまで言い続けるんや…」と不安と焦りが出てきました。そんな私に、先生とお母さんたちが「今のままで大丈夫。いつか泣かずに登園する日がくるよ。」と言ってくださり、そのいつかは、ある日突然やってきました。「今日○○ちゃんと遊ぶ約束してるし、ママは帰っていいで！」とあっけなくお別れ。別の日は、門前で「☺☺～」とお友達に呼ばれ、親の心配をよそ目に、走り出して行きました。いつか光信先生がおっしゃっていた「どれほど泣いていても好奇心を抱けるようなことが周りで起これば、すぐ笑ってその輪の中に居る」という言葉を思い出し、帰りの自転車を漕ぎながら私が泣きそうになったのも束の間、お迎えに行くと「遅い～」と泣いている☺☺が待っていました。

今回、執筆の依頼を受け、☺☺の園生活を振り返りました。担任の先生の毎月のお手紙や、お迎えの時の何気ない会話で、家とは違う☺☺の様子を聞かせてもらえることが私の支えとなっていました。子育てに正解はありませんが、むらさき幼稚園には子育ての本質を教えてもらったような気持ちでいます。3歩進んで2歩下がる。遠回りしながらでも、☺☺らしく、ゆっくりゆっくり成長していってほしいなと願うばかりです。最後になりましたが、常におもしろい・楽しいを探して生きている子どもたち。その全てを受け止め、温かく見守り、寄り添ってくださっている先生方には感謝しかありません。ヒトの土台となる幼少期を、むらさき幼稚園で過ごせることを誇りに思います。

